

所属・職位	理事(研究, 社会連携, 産学連携担当)、副学長、医学部医学科環境・予防医学講座・教授	
氏名	山岡 吉生 (Yamaoka Yoshio)	
取得学位	博士(医学)、京都府立医科大学、1997年3月	
SDGs目標	     	

研究分野 消化管感染症、分子疫学

研究キーワード ヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)、胃癌、消化器内視鏡、国際共同研究

研究内容 研究内容は(A)ピロリ菌が疾患や薬剤耐性を惹起するメカニズムに関する研究、(B)ピロリ菌を用いた人類学的研究の2つに大きく分類、**国際共同研究**を通してこれらの課題に取り組んでいる。外国人を含む若手研究者の育成にも貢献している(研究代表者として、頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム、頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム、国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムなど)。

(A)に関して、2つのピロリ菌新規病原因子を発見・命名した実績を持つ(OipA、DupA)。ゲノム解析を駆使し、新規病原因子・抗菌薬耐性遺伝子変異の発見に取り組み、迅速に変異を検出するシステムの構築にも取り組んでいる。

(B)に関して、ピロリ菌ゲノム解析にて、世界の諸民族の移動の歴史を解明、最近では日本人の起源についての研究にも取り組んでおり、沖縄には、旧石器時代や縄文時代の名残を残すピロリ菌が存在、前者は中央アジアから4万年ほど前に異動してきたことを証明した。**国際共同研究**では、低開発国を中心に、世界17か国に自ら出かけて内視鏡技術指導を行い、ピロリ菌疫学研究を進めている。最近では、地球規模保健課題解決推進のための研究事業(GACD: AMED)および地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS: AMED + JICA)の代表として、ブータン政府と共同で胃癌撲滅プロジェクトに取り組み、ブータンにおけるゲノム解析基盤、迅速検査キット製造の社会実装を目指している。



ブータンで内視鏡検査を行う山岡

研究業績・アピールポイント 1997年にペイラー医科大学(米国)に留学、研究代表者として大型NIH研究費を獲得し、2010年からは同消化器内科講座教授を兼任。Impact Factor (IF) 3270.917点、Scopus: h-index 67、国際英文誌380論文(R4年6月末現在)。Nature、Science、Lancet、Lancet Infect Dis、Nature Rev Clin Oncol、Nature Rev Gastro Hepatol、Ann Intern Med、Clin Microbiol Rev.などIF50以上の雑誌に10論文発表(IF30以上の論文に32)(IF2021年度版)。世界のエキスパートを選定するExpertscape (<https://expertscape.com/ex/helicobacter+infections>)で、ヘリコバクター感染症研究エキスパートの**世界第3位**に山岡が入る(R4年6月末現在)。現在進行中の外部資金研究は上述のGACD、SATREPS以外に、研究代表者としてe-ASIA(AMED)、二国間交流事業、新学術領域研究(研究領域提案型)、基盤研究(B)があり、基盤研究(B)(途中基盤研究(A)あり)は7回連続で採択中。

【講座ホームページ】 <https://oitadepm.com/>

【業績リンク】 <https://researchmap.jp/yoyamaoka> (research map),

<https://research-er.jp/researchers/view/244636> (research-er.jp: 日本の研究.com)

<https://www.scopus.com/authid/detail.uri?authorId=55183784100> (Scopus)